

まとめとして

法政大学現代福祉学部教授 湯浅 誠

ありがとうございました。たくさん実践されている方が、学生さんを含めておられていることが分かって、大変心強い感じがしました。やっているとどうしても十分周囲に理解されていない、みたいな感じにいつもなるのですけども、ちょっと振り返ると、かなり隔世の感もあると思っています。さっきまたま数字に出しましたけども、多分 2006 年、高々 10 年弱前ですよ、14.2% も子どもの貧困が社会的に存在していたわけですが、多分この時東京で勉強会やっていたのは「江戸川中 3 勉強会」という 30 年以上の歴史のある老舗ですけども、そこぐらいだったのではないかなと思います。多分「文化共同ネットワーク」はやっていたのかな、微妙なところだと思いますけども。わずか 10 年ですよ、10 年足らずでこれだけ多くの人たちが都内だけでも数えきれないぐらいの学習支援が生まれています。全国に至ってはものすごい数ですけど。もちろん、状況は悪化していますが、

それ自体が喜ばしいことではないんですけども、それに応えようとしている人たちが非常に増えたことに私は隔世の感を感じますね。

そういう意味ではさらに広げるようにして頂きたいと思うのですが、実践されている方が多いので、私が実践しながら先輩格にいわれて今でもよく思い出す言葉をお送りすると、なかなか動かない、理解も広がらない、支援も不十分、なかなか「動かない」「動かない」ってなっている時が「ちょっとずつ動いている時」。「だめだー」となっている時は本当に止まる時。なので、やっていると「まだまだ足りない」「これで本当に意味はあるのか」「あんまり理解してくれない」ってなるんですが、ジタバタしている時が、ちょっとずつ動いている時なので、是非ジタバタしてください（笑）。

ということで私からの話は以上です。ありがとうございました。